

目的

第3次魚津市観光振興計画に基づく観光地域づくりを推進するため、観光事業者間の連携強化やスキルアップを図るとともに、将来的な魚津版DMOの設立を見据えて観光施策を推進する役割を担う中心的な組織の強化を図るもの。

Phase1

検討・準備期

■目標

観光事業者間の連携強化やスキルアップ、観光施策を推進する役割を担う中心的な組織の構築など基盤作りを行う。

R4年度

- ・セミナー・講演会の開催
- ・先進地視察
- ・設立に向けた方針策定

R5年度

- ・新たな組織体系の検討
- ・観光事業計画や資金面などの詳細の検討
- ・法人格の取得

Phase2

設立期

■目標

切れ目なく観光施策を推進する役割を担う中心的な組織として、地域DMOを設立する

R6年度

- ・観光地域づくり法人形成・確立計画の策定
- ・秋に候補DMO申請・認可
- ・DMO稼働開始

R7年度

- ・各種要件を満たすように取り組み実施
- ・年度中に登録DMOとして申請・認可

Phase3

運用期

■目標

『地域で稼ぐ』観光地域づくりをめざし、DMOの活動を強化する

R8年度

- ・正式に登録DMOとしての稼働を開始
- ・幅広い方向せ魚津の観光を活性化

R4年度 観光推進体制組織強化事業【取り組みのおさらい】

7回のセミナー＋2回の視察で観光知見の底上げとDMO設立に向けた「事前知識のインプット」を図る

目的
(インプット内容)

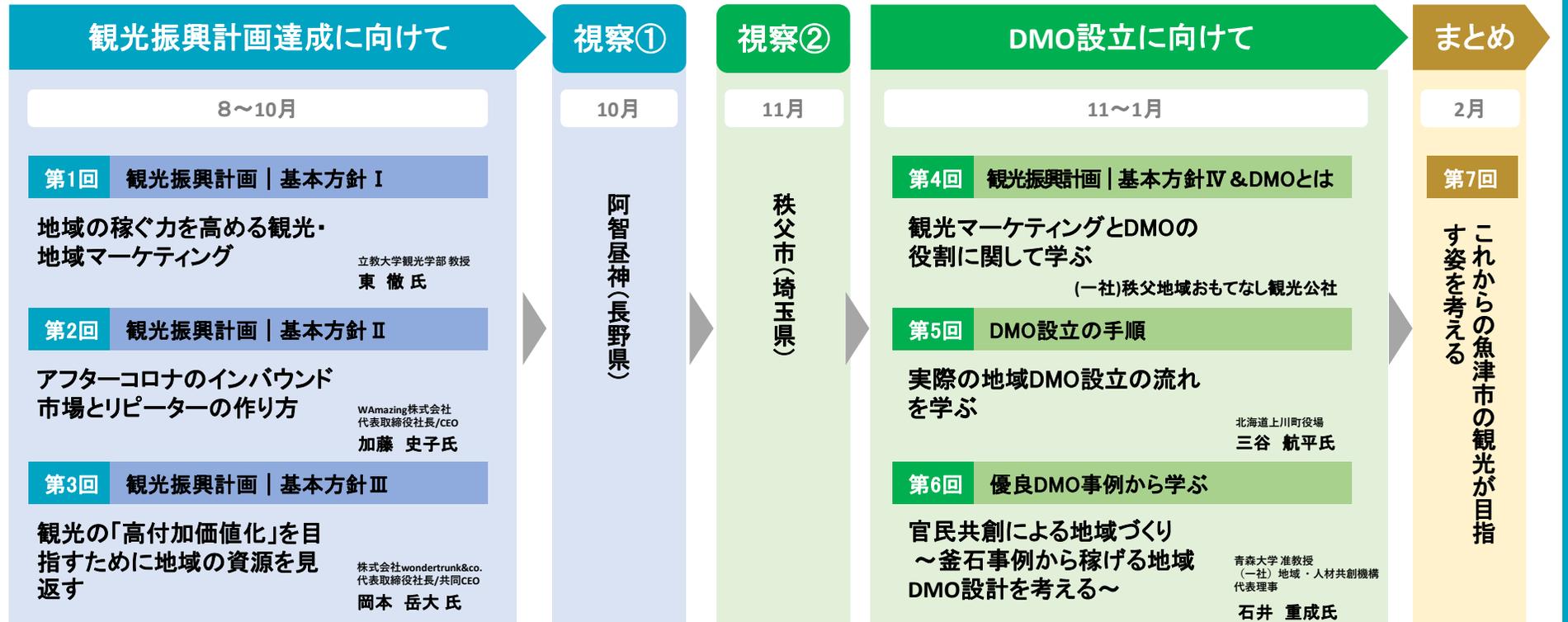
- ① 「魚津市観光振興計画」の達成に向けて視座を高める
- ② DMO設立の基盤となる情報のインプット

R4年度のテーマと内容・全体の流れ

●前半

●後半

●まとめ



■セミナーをやって学んだこと

- ・観光マーケティングは、観光周辺だけにあらず。
観光客の満足度（外向き）と地域住民の満足度（内向き）の共存したまちづくりを意識すべし！
- ・デジタルを重視して、旅マエ～ナカ～アトまで、ワンストップに接点を持ち、地域のファンと繋がることが重要。来訪者が使い易いDXへ！
- ・地域価値向上を目指すためにまずは、「どんな旅人に来てほしいか？」を検討するべき。
持続可能な観光地は質が重要、地域を巻き込んで。
- ・DMOは行政・非営利・営利の真ん中に立つ、地域の舵取り役であり、利益追求をしながら、全体の調整を行うことも重要なのである。
- ・DMOの事業は行政に100%指図はされない。行政を資金調達源（補助金や税金）に連携しながらも、自分たちの意思で地域のためになる事業を行なっている。
- ・マーケットインでのキラーコンテンツ作り（モノ&コト）が必要。
事業計画の立案と様々な財源からの資金調達が重要、事前に他のいいとこ取りな設計ができればOK！

R4年度の事業に参加いただいた事業者からは、魚津市にとってDMOは“必要である”という意見が多数。

参加者が求めるDMOの組織像

- ・旗振り役として、観光と物産の両輪で“地域の稼ぐ力”を高める組織
- ・補助金の受け皿ではなく、デジタルを武器に能動的に動ける組織
- ・観光以外のプレーヤー参画を通じ、持続可能な観光地域を作る組織
- ・地域の舵取り役かつ、地域の生データをもって活用できる組織
- ・行政資金をベースに、ヒトモノコトで地域全体を稼がせる組織
- ・人材活用と資金調達を意識しながら、キラーコンテンツを作れる組織

セミナー・視察で得た学び・参加者の声を元に、DMO設立に向けて検討・整理すべき事を
第7回セミナーにて提案

R4年度 観光推進体制組織強化事業【DMO設計の検討事項】

検討事項①何を目的とするか

■検討事項① Why

“稼げるDMO”を作るのではなく、
“DMOがあるから地域が稼げている状態”を目指す！

現状の各事業者の収益を100%とした時に、
DMOのおかげで収益110%になった(儲かった!)がベスト

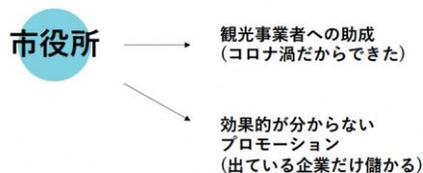
すると地域全体で(市にとっても)税収が110%になる結果に

「DMOがないよりもあった方が、みんな儲かるじゃん！」
を一丸となって目指すべきだと感じた

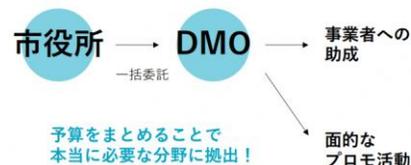
■検討事項① Why

自治体の予算をまるっとDMOに委託する、
というやり方が意外とハマる可能性。

いままで



これから



検討事項②何を活動内容にするのか

■検討事項② What

大きく4つの領域での事業を展開することで、
リスク分散かつ収益ポートフォリオが組みやすく。

魚津DMO

I 観光企画事業

市内全体の収益を上げるために自主企画する
観光イベントやフェア、観光ツアー造成販売など

II 地域づくり事業

市の委託事業(観光、指定管理)をDMOが受けるなど
(便利屋にならず、関連性を生かした収益化のため)

III 地域ブランド事業

特産品開発、ふるさと納税での販売など
物販を中心とした地域ブランド造成～収益化など

IV 事業者支援事業

市内事業者の収益向上のために実施する、事業者
向けセミナーや助成金、周遊スタンプラリーなど

全ての広報

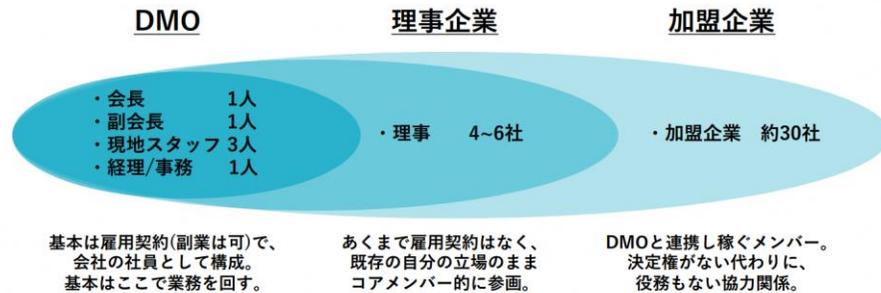
地域全体としての広報を担当するもDMOの職務にしたい

R4年度 観光推進体制組織強化事業【DMO設計の検討事項】

検討事項③誰が中心となって進めていくのか

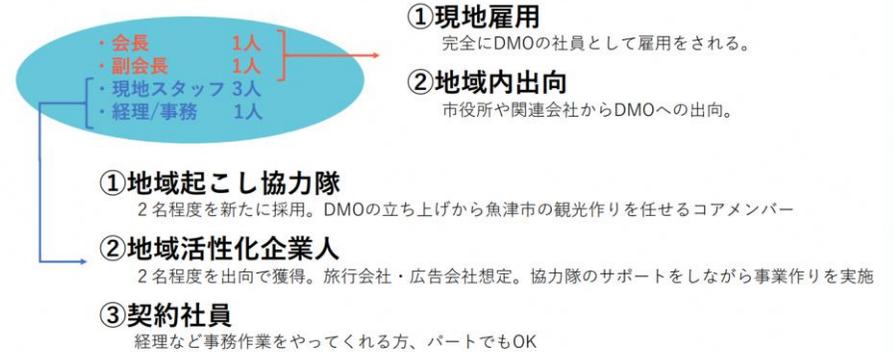
■検討事項③ Who

3つの立場を作り、地域全体がDMOに関われるように。
それぞれの立場を明確化しておくことが重要。



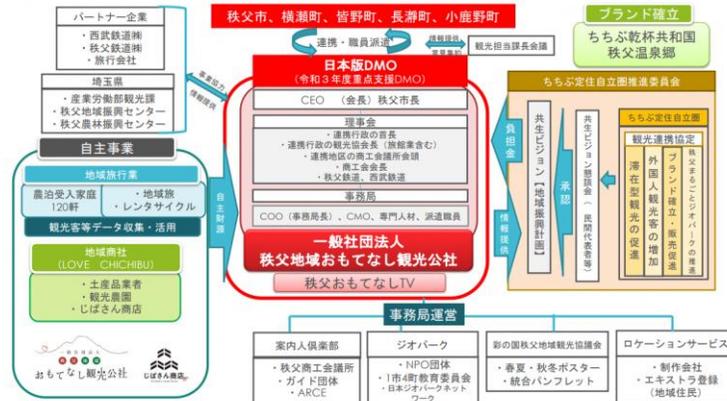
■検討事項③ Who

DMOのメンバーはそれぞれのパターンで雇用を検討。



■検討事項③ Who

★参考：秩父おもてなし観光公社の組織図



R4年度 観光推進体制組織強化事業【DMO設計の検討事項】

検討事項④どこで活動するのか

■検討事項④ Where

観光協会と距離が近い存在になるべき。
同じオフィスで別組織の棲み分けを明確に。

市役所	観光協会	DMO
<p>目的&役割： 財源を持つある種のファンド組織。 お金と事業のコントロールを行う！</p> <p>意思決定：住民と代表者の議会</p> <p>財源：税金や交付金</p> <p>業務：国への事業申請と予算獲得、 予算執行（事業作りと伴走）など</p>	<p>目的&役割： 過去の伝統的取り組みを繋ぐ組織。 地域の賑わいや関係性作りをやる！</p> <p>意思決定：協会員との合意形成</p> <p>財源：協会員からの加盟金</p> <p>業務：お祭りなどの非営利行事、 地域の困りごと解決など</p>	<p>目的&役割： 稼げる地域を経営する組織。 観光協会がやらない稼ぎ方をやる！</p> <p>意思決定：一企業の経営判断</p> <p>財源：市役所からの支援、自社利益</p> <p>業務：観光、地域づくり、ブランド、 事業者支援の4軸で稼ぐ</p>

広報は集約して実施したほうが効率が良い（DMOを想定）

検討事項⑥どうやって活動するのか

■検討事項⑥ How

どうやって事業を行うかの詳細は来年検討。
とはいえ、基盤となる金勘定は先に検討の余地あり。

想定 インカム	観光庁などの補助金	観光再始動など、1500万円程度の補助金獲得想定。	最低 6000 万円の 売上
	市役所からの委託事業	観光関連事業など、1000万円程度の委託を想定。	
	ふるさと納税事務局業務	寄付金5億円とすると、2500万円程度(5%)を想定。	
	協力隊・企業人予算	3人程度で1000万円程度の助成を想定。	

※観光は初年度から売りが立つ確率が低いので、インカム計算はなし。ただ最も取り組むシェアとしては大きい。

検討事項⑤どんなタイムラインか

■検討事項⑤ When

来年度は、まず法人の箱を作ってみる。
その後に組織作りを進めて年度中に申請まで検討したい。

4月～9月

企業という箱作り

- ・法人化
出資は自治体、地銀などから共同で出資
(理事企業からの出資検討)
- ・メンバー
まずは市長を代表に箱だけ作り、
その後にメンバーの精査を行う。

10月～3月

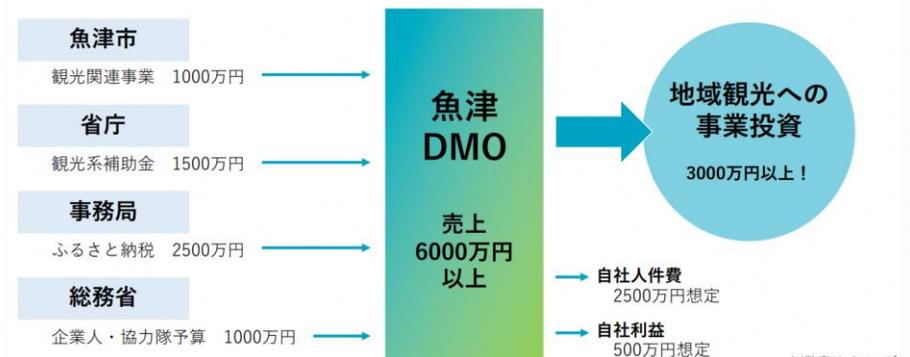
実態のある組織作り

- ・代表者
誰がDMOのコアメンバーとして事業を実施
していくのかを明確にし、雇用契約を締結。
- ・メンバー
協力隊や企業人の募集を行い、組織を強化。
実際の事業に耐えうる状態へ。

候補
DMO
申請

■検討事項⑥ How

DMOが回るだけではなく、地域が稼げるような事業へ。



※数字はイメージ